

ボランティア通訳ガイドの現状及び考察

○シヨウテイ[東海大学大学院文学研究科文明研究専攻]・

田中伸彦[東海大学観光学部]

キーワード：通訳ガイド、ボランティア、SGG

1. 研究の背景

20世紀に入り、世界中でグローバル化が加速した。そして、科学や技術などの発展によって、人々はより視野が広がり、自分の周りだけではなく、より広く世界を知ることができるようになった。そのため、多くの人々が自分の生活圏を出て、他国の自然・文化や人々の生活を見ること、体験することなどを行い始めた。すなわち、ツーリズムが始まった。

「国」という概念を基準に考えた場合、ツーリズムは大きく3つに分けて考えることができる。すなわち、外国人が自国を旅行するインバウンドツーリズム、自国人が自国内を旅行する国内観光旅行(ドメスティックツーリズム)、自国人が外国を旅行するアウトバウンドツーリズムである。

インバウンドツーリズム(inbound tourism)とは中に流れ込む意味であるため、日本を例にすると、訪日外国人観光ということに当たる。ドメスティック(domestic)というのは自国、国内の意味なので、ここでは国内旅行ということになる。そして、アウトバウンドツーリズム(outbound tourism)とは外に流れて出すという意味であるため、日本で例えると海外旅行に相当する。

本論では、その3種類のツーリズムの中のインバウンドツーリズムに注目した。特に、2003年からビジット・ジャパン事業開始以来、日本へのインバウンド観光者数が年々大幅に増えている傾向が見える現在、日本のインバウンドツーリズムの振興にあたって、解決しなければならない課題がどんどん増えていることに着目した。その中でも、通訳ガイドの問題が日々に深刻な課題になりつつあることを今回の考察の対象とした。つまり、本論では日本の現在の通訳ガイドの現状を調査し、その課題を考察・整理することが重要な課題と考えている。

2. 目的・対象・方法

日本でインバウンドツーリズムが推進される現在、日本の通訳ガイドの需要もますます増え、重要な課題になりつつある。本論は、現在日本で直面している観光通訳ガイドの課題について、有償通訳ガイドと無償ボランティア団体との関係と現状について整理したい。特に日本政府観光局(JNTO)が公認しているSGGというボランティア団体の実態を整理し、現状を考察した上で、既存データや文献の分析を行うことを考えている。

3. 日本に現存している通訳ガイド

現在日本では、2種類の通訳ガイドが存在している。1つ目は有償の通訳ガイド、つまり通訳案内士という国家試験や国が特別認定している資格を有するガイドで、2つ目は無償で通訳ガイドを行っているボランティアガイドが存在している。

3-1 有償通訳ガイド

有償の通訳ガイドは合計3種類がある。国家試験を有する通訳案内士、地域限定の案内できる地域限定通訳案内士と、特別に認定できる特例ガイドの3種類である。

通訳案内士は対象の外国語が10ヶ国語である。受験者は年齢、性別、国籍は問わず受験できる国家試験である。2015年4月1日までの登録者数は19,033人に達している⁽¹⁾。

地域限定通訳案内士とは、一つの都道府県の範囲に限って通訳案内業務を行うことができる制度である。「地域限定案内士」の登録者は 379 人である。今では各都道府県で実施可能ではあるが、現状としては沖縄のみで実施されている⁽²⁾。

特例ガイドとは、さらに細かく、各地域の個別のニーズに対応するためのガイドであり、「通訳案内士」と「地域限定通訳案内士」と違い、取得条件は国家試験や都道府県の試験ではない。地方公共団体の研修を受け、取得できる資格である。現状としては、まだ全国規模では実施しておらず、現在認定されている地域は 13 地域しかない状況でもある。現在の登録者数は 651 人（平成 27 年 6 月 1 日まで）⁽³⁾ である。

3-2 ボランティアガイド団体 SGG

無償で通訳ガイドを行われているボランティアガイドについては、JNTO で公認した「グッドウィルガイド」という団体が存在する。「グッドウィルガイド」とは善意通訳（GG=Good will Guide）であり、その善意活動に関する運動は「善意通訳普及運動」とし、町なかや駅、車中などで言葉が通じず困っている外国人旅行者を見かけた際に、語学力を活かして積極的に手助けするなど、外国人旅行者の言葉の上での困難や不便の解消を目指すという趣旨の一人一人のボランティア精神の普及運度である。その「善意通訳普及運動」や「グッドウィルガイド」を管理し、促進する組織は「善意通訳組織(SGG=Systematized Goodwill Guides)」である⁽⁴⁾。「グッドウィルガイド」の登録は 18 歳以上で、全ての外国語が対象となり、その外国語で簡単な道案内ができる程度の語学力が満たされ、SGG の方針を理解できることで登録することができる。

JNTO ではこの運動の趣旨に賛同し、登録いただけただ方に対し、その意思表示のしるしとして善意通訳カードとバッジ（図—1）を交付している。SGG クラブは全国に 88 団体がある（JNTO で登録している団体数である）。各 SGG 団体によって、入会規制や資格、年会費などが異なる。さらに、各クラブによって、年会費も異なるとのことである。



図—1 「グッドウィルガイド」ロゴ⁽³⁾

4. 東京 9 団体の SGG

日本政府の公的サイトで確認したところ、東京には SGG 団体が合計 9 箇所確認できることが明らかとなった。それらは現在公開されている 2 つの公式サイトで紹介されている。1 つ目は、JNTO の公式サイトであり、もう 1 つは東京都の公式観光サイト「GO TOKYO」である。JNTO の公式サイトに登録されている東京の通訳ガイドボランティア団体には以下の 7 箇所があることが確認された。つまり、「Tokyo Free Walking Tour (TFWT)」、「江戸東京ガイドの会」、「Tokyo Student Guide Group」、「赤十字語学奉仕団」、「CAPITAL TOKYO WEST SGG CLUB (CTW SGG)」、「品川 SGG クラブ」と「東京 SGG クラブ」⁽⁵⁾7 箇所である。また、東京の観光公式サイト GO TOKYO の中にある「観光ボランティア団体の紹介」の中で紹介されたのは以下の 4 箇所である。つまり、「江戸東京ガイドの会」、「NPO 法人東京シティガイドクラブ (TCGC)」、「東京 SGG クラブ」と「NPO 法人 TOKYO FREE GUIDE」⁽⁶⁾ である。重複団体があるため、計 9 箇所あるとわかる。両サイトの中で、ともに紹介されたのは「江戸東京ガイドの会」と「東京 SGG クラブ」の 2 箇所である。

これら 9 箇所のボランティア団体では、ホームページがほとんど開設^(7~13)されているが、「Tokyo Student Guide Group」はホームページが使われておらず、Facebook のブログ「Tokyo Student Guide Group」⁽¹⁴⁾が使われている。また、「江戸東京ガイドの会」も単独のホームページは使われておらず、goo でのブログ「江戸東京ガイド」⁽¹⁵⁾を使用していることが明らかとなった。

東京の 9 団体の SGG では、外国語でのご案内では、英語はもちろん、それ以外でも、最も多く外国語ガイドできる。特に「NPO 法人 TOKYO FREE GUIDE」は 7 カ国のガイドに対応できる。また、東京にある 9 団体の SGG グループはほぼ規定のルートやツアー路線を設定せずに、外国人観光客の希望によって、東京都内を自由に回ることが多い。

5. 考察と課題

前述した通り、現在日本の通訳ガイドには、有償ガイドと無償ガイド両方がある。しかし、有償ガイド、つまり資格がある通訳ガイドの数は少なく、インバウンドツーリズムが推進している中では、需要が満たされない状況になっている。そのため、日本の無償ガイドシステムが非常に発達している状況にある。SGG の存在が、現状では日本の通訳ガイドを補完し、支えている現状である。

東京にある 9 団体の SGG では、それぞれ規制やルールなどがかかっている、一定的なレベルの外国語ができなければ、入会することが難しい条件もあり、年会費も団体によって異なるが、気安く入会することはできない。それは、SGG は年齢層が主に 50 代から 70 代の人を中心していることも関係していると思われる。つまり、現在である東京の SGG グループはかなりのハイレベルになっているが、ボランティアとして働いていることになる。

このように、現在の日本の通訳ガイドを支えている SGG 団体が日本において非常に重要な立ち位置になっている。しかし、2020 年には日本オリンピック・パラリンピックが開催されることになり、さらなるインバウンド観光客が増えることが予測できる。よって日本の通訳ガイドの現状を、ボランティア団体ばかり頼ることは深刻な問題であると考えられる。今回の考察は、東京に限定して行った考察であるため、日本全国の SGG 団体の状況を知るには、さらなる資料やデータを、今後分析することが必要である。それを今後の課題と考える。

引用文献

- (1) 日本政府観光局 JNTO ホームページ「通訳案内士概要」
http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/index.html
- (2) 日本政府観光局 JNTO ホームページ「地域限定通訳案内士試験との併願」
http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/interpreter_guide_exams/local_guide.html
- (3) 日本政府観光局 JNTO 「通訳案内士就業実態調査」 4
- (4) 日本政府観光局 JNTO ホームページ「グッドウィルガイド」
http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/goodwill_guides.html
- (5) 日本政府観光局 JNTO ホームページ「List of Volunteer Guides」
http://www.jnto.go.jp/eng/arrange/travel/guide/list_volunteerGuides.php?area=3&btnSearch=t#pref13
- (6) 東京の観光公式サイト GO TOKYO 「観光ボランティア団体の紹介」
<https://www.gotokyo.org/jp/volunteer/group/index.html>
- (7) 「CAPITAL TOKYO WEST SGG CLUB (CTW SGG)」
<http://www016.upp.so-net.ne.jp/CTWSGG/>
- (8) 「品川 SGG クラブ」
<http://sgg.skr.jp>
- (9) 「赤十字語学奉仕団」
<http://www.tok-lanserv.jp/index.html>
- (10) 「Tokyo Free Walking Tour (TFWT)」
<http://www.tfwl.jp/Pages/default.aspx>
- (11) 「東京 SGG クラブ」
<http://tokyosgg.jp/index.html>
- (12) 「NPO 法人東京シティガイドクラブ (TCGC)」
<https://www.gotokyo.org/jp/volunteer/group/index.html>
- (13) 「NPO 法人 TOKYO FREE GUIDE」
<http://www.tokyofreeguide.org>
- (14) 「Tokyo Student Guide Group」 Facebook ブログ
https://www.facebook.com/tsgg.for.tourists/about/?entry_point=page_nav_about_item&tab=page_info
- (15) 「江戸東京ガイド」 goo ブログ
https://www.facebook.com/tsgg.for.tourists/about/?entry_point=page_nav_about_item&tab=page_info